

調査位置平面図

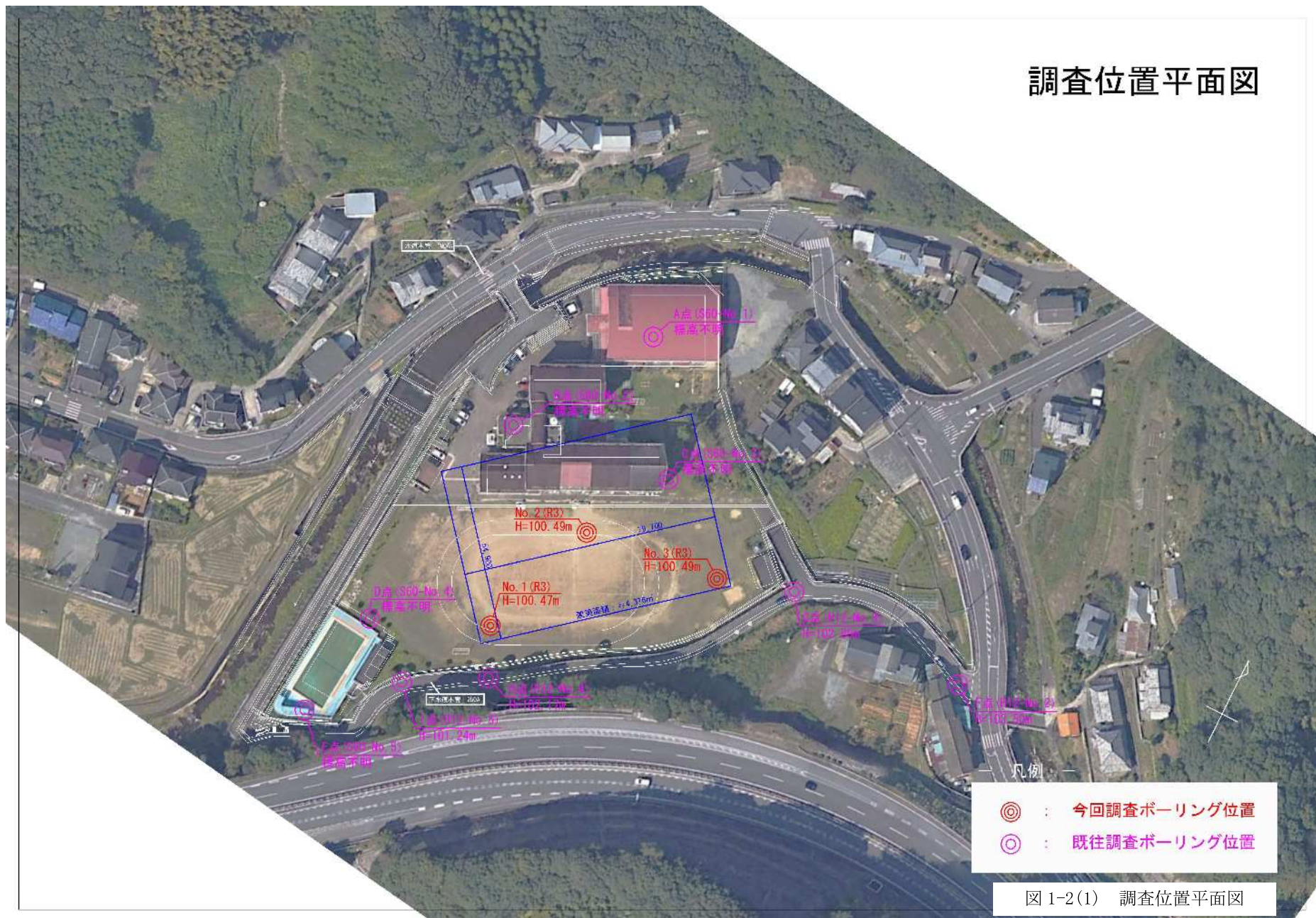
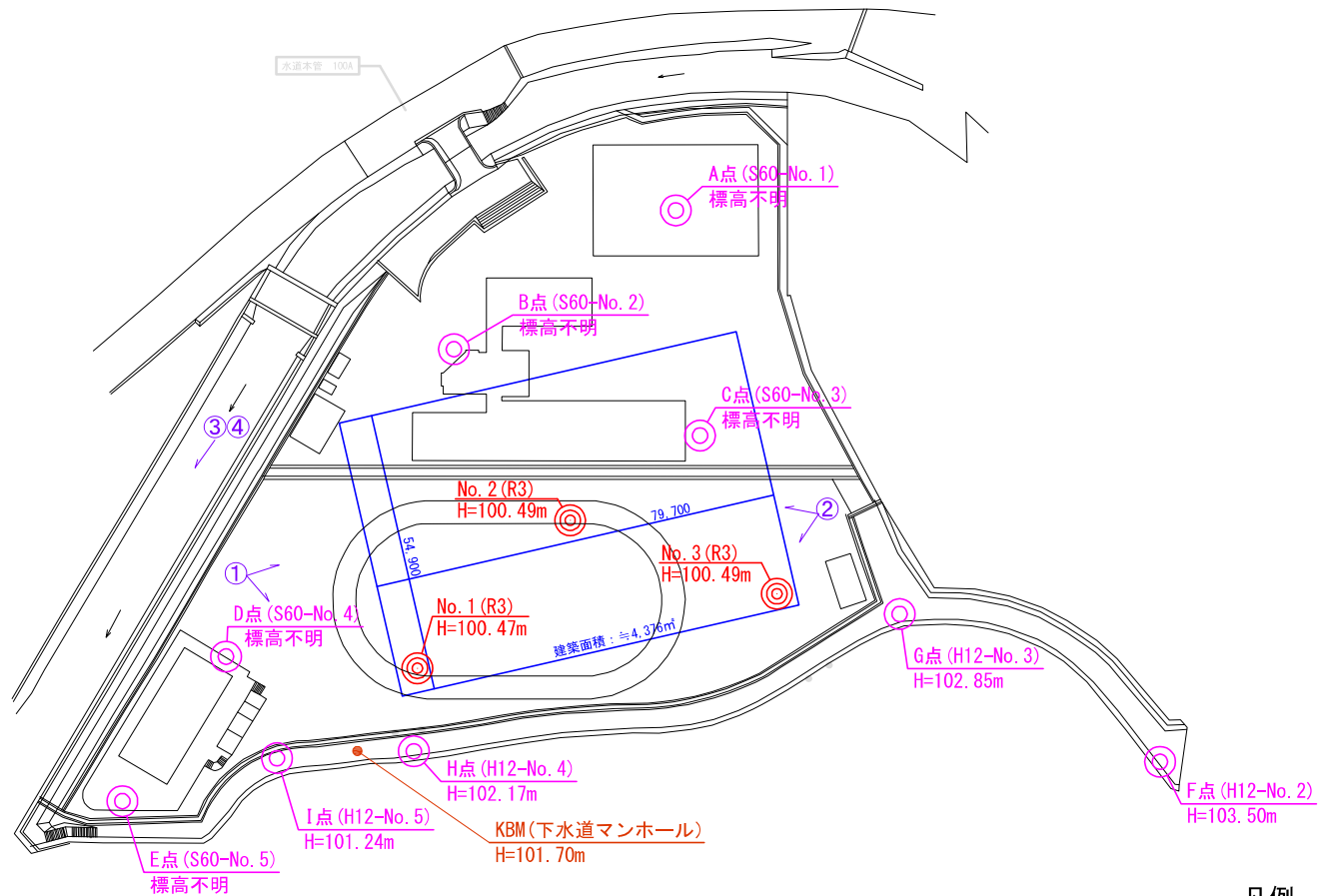
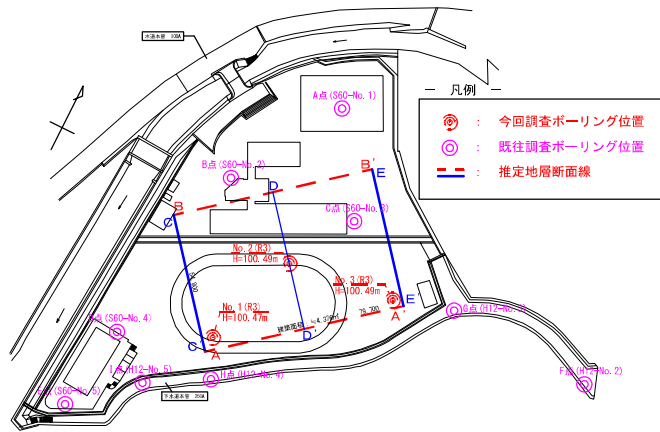


図 1-2(1) 調査位置平面図

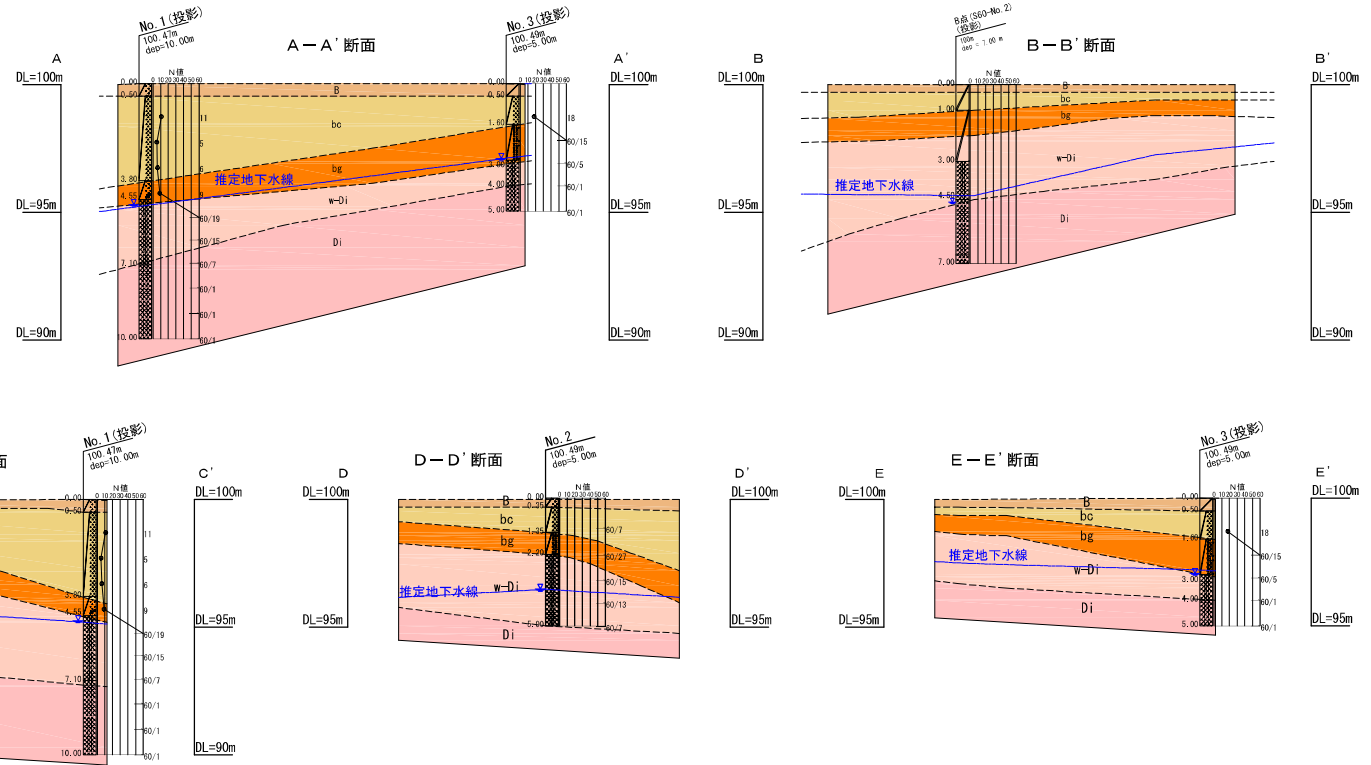


- 凡例 —
- ◎ : 今回調査ボーリング位置
  - : 既往調査ボーリング位置
  - ① : 写真撮影箇所

調査位置平面図 S=1:2,000



推定地層断面図 V=1:200 H=1:1,000



地層層序及び設計用地盤定数の提案値

時代	地層名	土質名	地層号	N 値		記事	設計N値	単位体積重量 $\gamma t$ (kN/m <sup>3</sup> )	せん断抵抗角 $\phi$ (度)	粘着力 C (kN/m <sup>2</sup> )	変形係数 E (kN/m <sup>2</sup> )
				範囲	平均						
新 生 代	盛土層	砂	B	—		グラウンド造成時の盛土。	—	19	25	0	—
				—							
	埋土層	礫混じり砂質粘土	bc	5~18	10.0	礫混じり砂質粘土状を呈する崖堆積物を造成時に埋めたものと推察される。	10	18	0	62	7,000
				9~21							
			礫混じり砂、砂礫	bg	15.0	礫混じり砂~砂礫状を呈する。 φ10~60mm程度の垂角~垂円礫を多く確認する。 φ200~300mm程度の玉石を確認する。	15	19	32	0	10,500
	新 第三 紀	風化閃緑岩	—	w-Di	95~300以上	183.9	コアは岩片~短柱状で採取される。 全体に風化を受け、ハンマーの軽打で亀裂沿いに割れる。 全体に亀裂が多く確認され、酸化し、褐色化する。	183	27	40	83
閃緑岩		—	Di	300以上							
				300.0	300.0	コアは短柱状で採取される。 比較的新鮮な状態で、ハンマーの強い打撃で割れる。 亀裂沿いに酸化し、褐色化する。	300	28	41	98	136,000

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 (仮称) 中部学校給食センター土質調査業務委託

專業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No. 1		調査位置	長崎県長崎市川平町108番地内		北緯	32° 48' 21.71"		
発注機関	長崎市 建築部 建築課		調査期間	2021年 6月 28日 ~ 2021年 6月 29日		東経	129° 53' 36.28"		
調査業者名	株式会社 P.M.構造	主任技師	山下 八州彦	現代理人	荏田 貴裕	コ定者	了	責任者	森田 雅俊
孔口標高	H=100.47m	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	試験機	D0-D(東邦製)	ポンプ	BG-3C(東邦製)		
総削孔長	10.00m	角度	0°	使用機種					

標尺 (m)	標高 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記	標準貫入試験				試料採取	室内位置	削孔月日	
										N値	100mmの打撃回数	100mmの貫入量	50回の貫入量				白沈時の貫入量
99.57	0.50	盛土、砂	盛土、砂		灰褐 ~灰	r02			グラウンド造成時の盛土。	11	4	3	11	300			
96.67	3.80	埋土、瓦雑堆積物	埋土、瓦雑堆積物		暗褐	r03	現世		礫混じり砂質粘土状を呈する瓦雑堆積物を造成時に埋めたものと推察される。	5	3	1	5	300			
95.82	4.55	埋土、礫混じり砂	埋土、礫混じり砂		暗褐	r03			礫混じり砂状を呈する。確認する。	9	2	3	4	300			
93.37	7.10	風化閃緑岩	風化閃緑岩		褐 / 乳灰	軟 I			コアは岩片~短柱状で採取される。土中に亀裂が認められる。全体に亀裂が多く確認され、酸化し弱化する。	9	2	2	2	300			
90.47	10.00	閃緑岩	閃緑岩		灰	軟 II	新第三紀		コアは短柱状で採取される。比較的脆い状態で、ハンマーの強い打撃で割れる。GI-7.1~9.1m間は亀裂が多く確認される。	9	2	2	2	300			

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 (仮称) 中部学校給食センター土質調査業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.2		調査位置	長崎県長崎市川平町108番地内		北緯	32° 48' 22.76"		
発注機関	長崎市 建築部 建築課		調査期間	2021年 6月 29日 ~ 2021年 7月 1日		東経	129° 53' 36.27"		
調査業者名	株式会社 P.M.構造 電話 095-5862-0601	主任技師	山下 八州彦 地質調査士 第19743号	現代理人	祐田 貴裕 地質調査士 第18504号	コ定者	了 祐田 貴裕 地質調査士 第18504号	ボーリング責任者	森田 雅俊 地質調査士 第22873号
孔口標高	H=100.49m	方位	北 270° 西 0° 東 90° 南	試験機	D0-D(東邦製)		ポンプ		BG-3C(東邦製)
総削孔長	5.00m	角度	180° 上下 0° 0°	エンジン	NFD-9(ヤンマー製)				
使用機種									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代	記	標準貫入試験					試料採取	室内位置	試験採取	削孔月日
											孔内水位/測定月日	N深	100mmの打撃回数	1000mmの打撃回数	2000mmの打撃回数				
1	100.14	0.35	盛土、砂	盛土、砂	灰	rd2	rc3	現世	グラウンド造成時の盛土。		4.14	60	70						
2	99.14	1.35	埋土、崖堆積物	埋土、砂礫	灰	rd4			凝滞じり砂質粘土状を呈する。造成時に埋めたものを確認される。 φ10~40mm程度の垂角~垂円礫からなる砂礫状を呈する。 φ300mm程度の転石を確認する。		2.14	38	10	12	60	270			
3	98.29	2.20									3.15	42	15	30	150				
4						軟 1			コアは岩片~短柱状で採取される。全体に風化を受け、ハンマーの撃打で粗裂状に割れる。全体に亀裂が多く確認され、酸化し褐色化する。		4.05	14	16	30	130				
5	95.19	5.00									4.18								
											5.00	60	70						
											5.97	70							

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

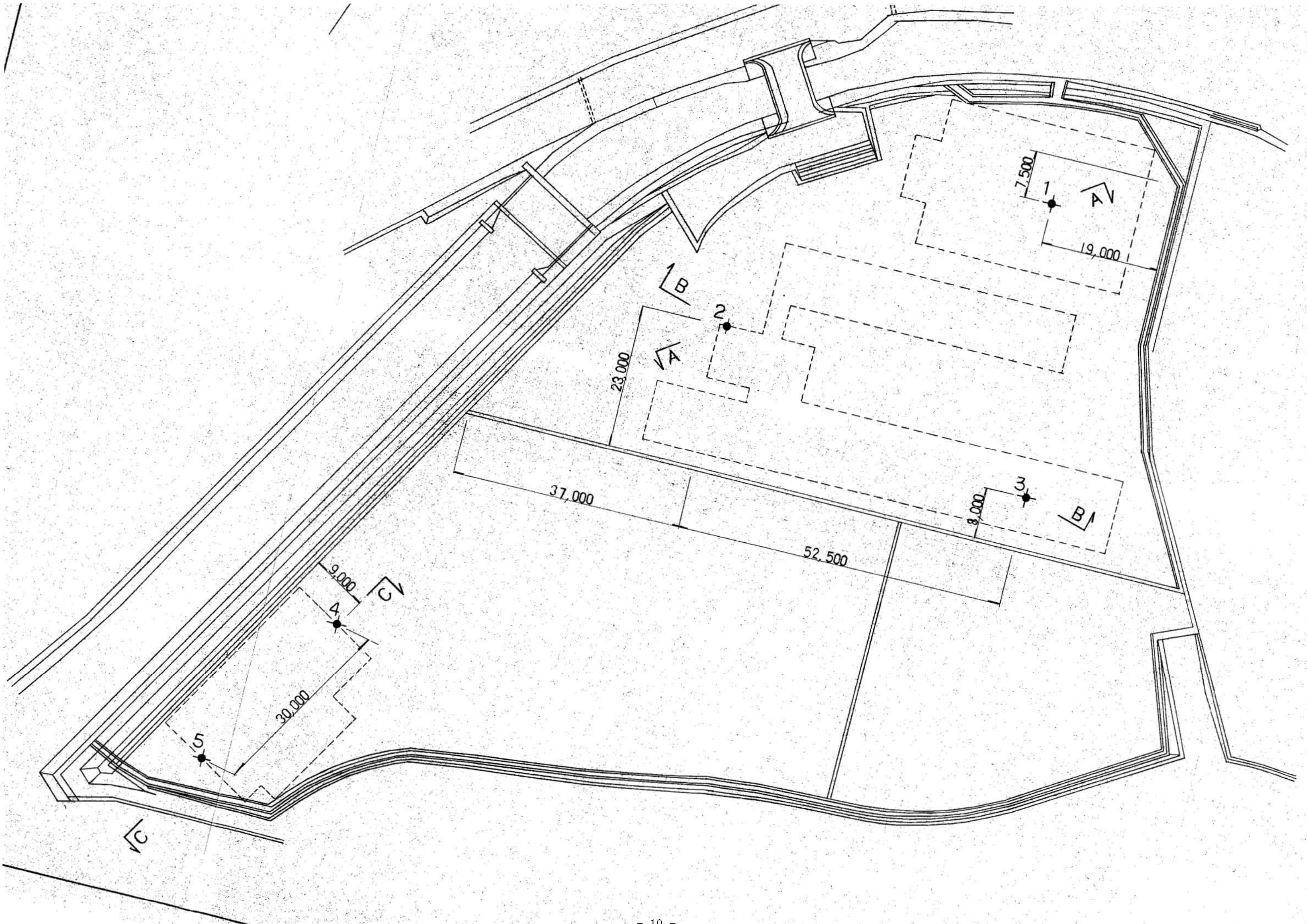
調査名 (仮称) 中部学校給食センター土質調査業務委託

專業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.3		調査位置	長崎県長崎市川平町108番地内		北緯	32° 48' 23.07"		
発注機関	長崎市 建築部 建築課		調査期間	2021年 7月 1日 ~ 2021年 7月 2日		東経	129° 53' 37.97"		
調査業者名	株式会社 PAL構造	主任技師	山下 八州彦 <small>地質調査士 第19743号</small>	現代理人	荏田 貴裕 <small>地質調査士 第18504号</small>	コ定者	荏田 貴裕 <small>地質調査士 第18504号</small>	ボーリング責任者	森田 雅俊 <small>地質調査士 第22873号</small>
孔口標高	H=100.49m	方位	北 270° 西 0° 東	試験機	DO-D(東邦製)		エンジン		NFD-9(ヤンマー製)
総削孔長	5.00m	角度	180° 上下 0° 0°	使用機種					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相對密度	相對稠度	地質時代名	記	標準貫入試験						試料採取	室内位置試験	削孔月日		
											N深100mmの打撃回数	100mmの貫入量	100mmの打撃回数	100mmの貫入量	50回の打撃回数	50回の貫入量				白沈時の貫入量	
1	99.99	0.50		埋土		灰褐~灰	r02		現世	グラウンド造成時の盛土。	2.39	3.15	4	5	9	18	300				
2	98.89	1.60		埋土、塵雜 堆積物		灰褐	r03		現世	隙間より砂質粘土状を呈する堆積堆積物を造成時に埋めたものと推察される。	2.39	3.15	7	53	60	150	60	50			
3	97.49	3.00		埋土、砂礫		灰褐 / 灰	r05			18~50mm程度の亜角~亜円礫からなる砂礫が主となる。φ200mm程度の玉石を確認する。	4.00	3.15	60	60	60	10	60	10			
4	95.49	4.00		風化閃緑岩		褐 / 乳灰	軟I		新第三紀	コアは岩片状で採取される。全体に風化を受け、ハンマーの打撃で亀裂がいくつも認められ、全体に風化が多く確認され、亀裂に沿って酸化し褐色化する。	4.00	4.00	10	60	60	10	60	10			
5	95.49	5.00		閃緑岩		灰	軟II			コアは短柱状で採取される。比較的新鮮な状態で、ハンマーの強い打撃に亀裂がいくつも認められ、亀裂に沿って酸化し褐色化する。	4.00	4.00	60	60	60	10	60	10			







# 土質柱状図

調査名・調査地点 川平小学校々舎増築工事に伴う敷地地質調査

標高

調査年月日 60年 5月 11日 ~ 60年 5月 13日

ボーリング孔No. 2

孔内水位

-4.60

調査担当者

岩永利男

標尺	標高	深さ	層厚	現場観察記録				標準貫入試験								試料採取						
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ	打撃回数 貫入量 cm	10cmごとの 打撃回数			N 値						試料番号	深さ	採取方法	
										10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50				60
1				X		褐 灰	0.00~1.00m 埋土 礫混り粘性土													1.00		
2						茶 褐	1.00~3.00m 旧表土 転石多く見られる。	2.15												2-1	1.50	×
3	-3.00	3.00	3.00	>		礫混り土		2.40	50/25	1	27	22/5										
4	-4.00	4.00	1.00	>>		風化層 (変朽安山岩)	全体的によく締まっている。	4.00												2-2	3.15	○
5				>				4.14	50/14	37	23/4											
6				>		黄 褐	亀裂多く所々5~ 10mm程度の短柱状 コアで採取される。															
7	-7.00	7.00	STOP	>		変朽安山岩		7.00	50/0											2-3	6.50	×
8																						
9																						

備考:

試料採取方法の記号

シンウォールサンプラー

デニソン型サンプラー

貫入試験用サンプラー

フォイルサンプラー

その他

不許複製 2-1

社団法人 土質工学会

# 土質柱状図

調査名・調査地点 川平小学校々舎増築工事に伴う敷地地質調査

標高

調査年月日 60年 5月 8日～60年 5月 9日

ボーリング孔:No.

3

孔内水位

-2.80

調査担当者 岩水利男

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験										試料採取							
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10cmごとの打撃回数			N 値						試料番号	深さ m	採取方法				
										10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50				60			
1	-1.60	1.60	1.60	X	礫混り土	茶 褐 青 灰	0.00～0.70m 0.70～1.60m旧表土 草木混入、短柱状 コアで採取される 礫を含むマトリッ クスは軟弱である。													3-1	0.00	×			
2				>				2.00	50/1													0.50			
3				>	変朽安山岩	茶 褐 青 灰	短柱状コアで採取 される。亀裂が多い が硬い。	2.01														2.00			
4				>																			3-2	2.50	×
5	-5.00	5.00	STOP	>					5.00	50/1														4.00	
6								5.01														3-3	4.50	×	
7																									
8																									
9																									

備考:

試料採取方法の記号

シンウォールサンプラー

デニソン型サンプラー

貫入試験用サンプラー

フォイルサンプラー

その他

不許複製 2-1

社団法人 土質工学会

# 土質柱状図

調査名・調査地点 川平小学校々舎増築工事に伴う敷地地質調査

標高

調査年月日 60年 5月 7日～60年 5月 8日

ボーリング孔No.

4

孔内水位

-3.50

調査担当者 岩永利男

標尺	標高	深さ	層厚	現場観察記録				標準貫入試験										試料採取							
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ	打撃回数	10cmごとの打撃回数			N値					試料番号	採取方法						
											10	20	30	0	10	20	30	40	50	60					
1																									
2						褐灰	3～7cmの短柱状コアの礫を部分的に介在する。全体的に礫を多く含みマトリックスは軟弱である。	2.15														2.15			
									2.45	7/30	3	1	3										4-1	2.45	○
3						黄褐																			
4									4.15																
								4.45	7/30	2	1	4											4-2	4.45	○
5	-5.00	5.00	5.00		礫混り土			5.00	50/3																
6	-5.75	5.75	5.75		風化層 (変朽安山岩)	茶褐	風化著しく軟弱である。	5.03																	
7						黄褐	所々、軟弱な部分があり粘土化している。全体的に棒状コアで採取されるが亀裂が多い。																		
8	-8.00	8.00	STOP		変朽安山岩	青灰			8.00	50/7													4-3	8.00	△
9								8.07																	

備考:

試料採取方法の記号

シウォールサンプラー

デニソン型サンプラー

貫入試験用サンプラー

フォイルサンプラー

その他

不許複製 2-1

社団法人 土質工学会

# 土 質 柱 状 図

調査名・調査地点 川平小学校々舎増築工事に伴う敷地地質調査

標 高

調査年月日 60年 5月 6日～60年 5月 7日

ボーリング孔No.

5

孔内水位

ナ シ

調査担当者 岩 永 利 男

標 尺 m	標 高 m	深 さ m	層 厚 m	現 場 観 察 記 録				標 準 貫 入 試 験											試 料 採 取						
				土 質 記 号	土 質 名	色 調	記 事	深 さ m	打 撃 回 数 / 貫 入 量 cm	10cmごとの 打撃回数			N 値					試 料 番 号	深 さ m	採 取 方 法					
										10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40				50	60			
1				X			1~8cmの礫を含む 1~3cmは礫状コアで 5~8cmは短柱状コア で採取、マトリック スは、軟弱である。															1.15			
2	-2.80	2.80	2.80		礫混り土	褐 灰		2.15														5-1	1.45	○	
3				>>				2.45	7/30	3	2	3											3.15		
4				>>>				4.00														5-1	3.45	○	
5				>>>			所々風化が進行して おり、それらは粘土 化している。 棒状コアで採取され るがもろくくずれる	4.28	50/28	12	18	20/S												6.10	
6				>>>	風 化 層 (変朽安山岩)	黄 褐																		6.23	
7	-7.00	7.00	STOP					7.00	50/12	38	12/2														
8								-7.12																	
9																									

備 考:

試料採取方法の記号

シソウォールサンプラー

デニソン型サンプラー

貫入試験用サンプラー

フォイルサンプラー

そ の 他

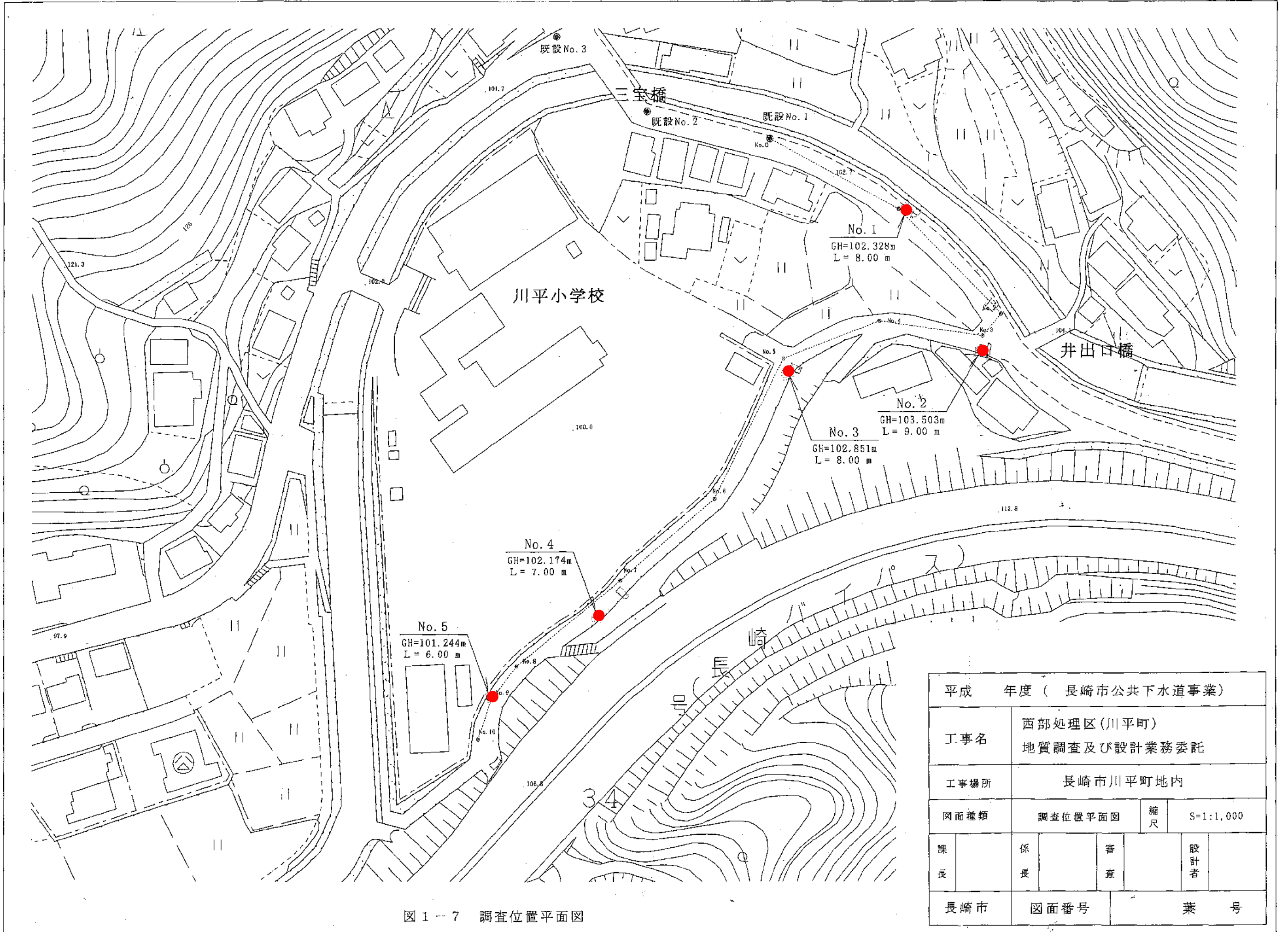


図 1 - 7 調査位置平面図

# ボーリング柱状図

調査名 西部処理区(川平町)地質調査及び設計業務委託

ボーリングNo.                              

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1	調査位置	長崎市 川平町 地内			北緯	32° 48' 13.9"									
発注機関	長崎市 下水道部 下水道建設課			調査期間	平成 12年 5月 27日 ~ 12年 5月 29日			東経	129° 53' 47.3"							
調査業者名	パシフィックコンサルタンツ株式会社 電話(092-885-5016)		主任技師	手島健治		現代代理人	古橋裕二		コ鑑定者	戸屋文雄						
ボーリング責任者	重松秋良															
孔口標高	102.328m	角	180°上		方	北 0° 90° 西 270° 東 90°		地盤勾配	水平 0°		使用機種	D0-DL型		ハンマー落下用具	コーンブーリ	
総掘進長	8.00m	度	下 0°		向	北 0° 90° 西 270° 東 90°		鉛直	90°		エンジン	NFD-10型		ポンプ	動力噴霧器	

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	土質	記	孔内水位	標準貫入試験				原位置試験	試験名	採取	室内	掘進
											度	10cmごとの	打撃	回数					
(m)	(m)	(m)	(m)	図	区分	調	度	分	事	(m)	0	10	20	(m)	お	番	方	日	
1	101.13	1.20	1.20		試掘	黒~暗	褐	試掘	0.0~0.1m間は7スファイト。 0.1~0.4m間は砕石。 0.4~1.2m間は礫混じり土砂。 φ10~40m/m大の礫を40%程度混入する。	5/29 2.15	2	3	3	8					
2	99.98 99.73	1.15 0.25	2.35 2.60		粘性土	褐	灰	粘性土	全体に円礫混じり粘性土にて採取される。 マトリックスは砂質粘土であり、φ2~30m/m大の円礫を10~20%程度含有する。	2.45 3.00 3.00	3	5	10	18					
3					風化層・閃緑岩	淡	褐	粘性土	土柱状コア主体で採取される。礫混じり粘性土状を呈し、岩組織明瞭である。	4.00 4.00	貫入不能	貫入不能	貫入不能	貫入不能					
4					閃緑岩	淡	灰	軟岩II	短柱~棒状コア主体で採取される。 2.6~6.0m間は亀裂に沿って酸化により褐色化し、所々で細片化する。 特に5.0~5.2m間は細片化著しく、粘土分が付着する。 6.0m以深は非常に新鮮な閃緑岩となり、ハンマーの打撃により鈍い金属音を發す。 最大コア長は40cm程度である。										
5																			
6																			
7																			
8	94.33	5.40	8.00												現場透水試験 4.70*10-4cm/sec	6.10 6.20	6-1	5 27	

<凡例>  
柱状図および土質区分

試料採取方法

第1分類			第2分類			第3分類		
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様
土質	礫 (G)	○●○●	補助記号	砂質 (S)		岩石材料	硬岩 (HR)	
	礫質土 (GF)	○●○●		シルト質 (M)			中硬岩 (MR)	
	砂 (S)	●●●●		粘土質 (C)			軟岩、風化岩 (WR)	
	砂質土 (SF)	●●●●		有機質 (O)		玉石 (B)	○●○●	
	シルト (M)			火山灰質 (U)		浮石(軽石) (Pm)	▲▲▲▲	
	粘性土 (C)			玉石混り (-B)		特殊	シラス (Si)	▲▲▲▲
	有機質土 (O)			砂利・礫混り (-G)		土	スコリア (Sc)	▲▲▲▲
	火山灰質粘性土 (U)			砂混じり (-S)		材	火山灰 (UA)	
	無有機質土(腐植土) (Pt)			シルト混り (-M)		料	ローム (Lm)	
		粘土混り (-C)			特殊	黒ボク (Cb)		
		有機質土混じり (-O)		マ	マサ (MG)			
		火山灰混り (-U)		表	土 (S)			
		貝殻混り (-Sh)		埋	土 (FI)			
				廃棄物 (W)				

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ ( ) による

備考

# ボーリング柱状図

調査名 西部処理区(川平町)地質調査及び設計業務委託

ボーリングNo. \_\_\_\_\_

事業・工事名 \_\_\_\_\_

シートNo. \_\_\_\_\_

ボーリング名	No. 2		調査位置	長崎市 川平町 地内			北緯	32° 48' 12.6"								
発注機関	長崎市 下水道部 下水道建設課			調査期間	平成 12年 5月 29日 ~ 12年 5月 30日			東経	129° 53' 49.3"							
調査業者名	パシフィックコンサルタンツ株式会社 電話(092-885-5016)		主任技師	手島健治		現場代理人	古橋裕二		コア鑑定者	戸屋文雄						
ボーリング責任者	重松秋良															
孔口標高	103.503m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°		使用機種	試験機 D0-DL型		ハンマー落下用具	コーンブーリ	
総掘進長	9.00m	度	0°		向			エンジン	NFD-10型		ポンプ	動力噴霧器				

掘進月日	室内試験( )	試料採取方法	採取番号	試験名および結果	試験深度(m)	標準貫入試験				N値	原位置試験	深度(m)
						10cmごとの打撃回数	0	10	20			
1						1.20	貫入不能	60	0			
2						2.00	貫入不能	60	0			
3						3.00	貫入不能	60	0			
4						5/30						
5						2.40						
6						6.50						
7						7.00						
8												
9												

<凡例>  
柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○●○●
	礫質土 (GF)	○○○○
	砂 (S)	●●●●
	砂質土 (SF)	●●●●
	シルト (M)	
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (U)	
高有機質土(腐植土) (Pt)		

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (U)	
	玉石混り (B)	○●○●
	砂利・礫混り (G)	○●○●
	砂混り (S)	●●●●
	シルト混り (M)	
	粘土混り (C)	
有機質土混り (O)		
火山灰混り (U)		
貝殻混り (Sh)	○●○●	

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (MR)	
	玉石 (B)	○●○●
特殊土材料	浮石(軽石) (Pm)	▲▲▲▲
	シラス (Sl)	▲▲▲▲
	スコリア (Sc)	▲▲▲▲
	火山灰 (VA)	▲▲▲▲
表土	ローム (Lm)	
	黒ボク (Kb)	
	マサ (MG)	
表土 (S)		
埋土 (FI)		
廃棄物 (W)		

- 試料採取方法
- ① シンウォールサンプラーによる
  - ② デニソンサンプラーによる
  - ③ 貫入試験器による
  - ④ フォイルサンプラーによる
  - ⑤ ( ) による

備考

# ボーリング柱状図

調査名 西部処理区(川平町)地質調査及び設計業務委託

ボーリングNo.                              

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 3		調査位置	長崎市 川平町 地内			北緯	32° 48' 12.2"									
発注機関	長崎市 下水道部 下水道建設課			調査期間	平成 12年 5月 30日 ~ 12年 5月 30日			東経	129° 53' 47.4"								
調査業者名	パシフィックコンサルタンツ株式会社 電話(092-885-5016)		主任技師	手島健治		現場代理人	古橋裕二		コア鑑定者	戸屋文雄							
孔口標高	102.851m	角	180°上 90°		方	北 0° 270° 西 90° 180° 南		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°		使用機種	DO-DL型		ハンマー	落下用具		コーンブーリー
総掘進長	8.00m	度	0°		向			エンジン	NFD-10型		ポンプ			動力噴霧器			

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	層度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	土質記号	記号	標準貫入試験				N 値	原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進			
										深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	深 (m)									
1	101.65	1.20	1.20		試験掘	黒く灰く暗褐色			0.00~0.05m間はアスファルト。 0.05~0.50m間は砕石。 0.5~0.7m間は粘性土(耕作土)		5/30 2.90	1.35	3	4	5	12/30						
2	100.30	1.35	2.55		粘性土	暗灰褐色			0.7~1.2m間は礫混じり土砂。 φ2~30m/m大の礫を30%程度混入し、多少粘性がある。 1.2~1.8m間は礫分を殆ど含まない砂質粘土主体である。 1.8~2.5m間は礫混じり粘性土となり、φ10~60m/m大の礫を30%程度含有する。 2.50~2.55m間はφ50m/m大の安山岩礫を転石状に挟む。		1.65 2.15	3	5	7	15/30							
3											2.45 3.00	貫入不能		60/0								
4											3.00 4.00	貫入不能		60/0								
5											4.00	貫入不能		60/0								
6					閃緑岩	乳灰・乳緑灰			軟岩II 全体に短柱~棒状コア主体で採取される。 2.55~6.10m間は亀裂が多く、岩片~短柱状コア主体となる。 亀裂に沿っては、酸化により褐色化し、所々で細片化する。 岩片自体は硬質である。 6.10~8.00m間は非常に新鮮な閃緑岩となる。 亀裂は僅かで、褐色化も殆ど見られない。 ハンマーの打撃で鈍い金属音を発す。 最大コア長は70cm程度である。								5.50	透水試験 4.58*10-4cm/sec	5.80 5.90	G-3	④	岩石試験
8	94.85	5.45	8.00																5.30			

<凡例>  
柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○●○●
	礫質土 (GF)	○○○○
	砂 (S)	.....
	砂質土 (SF)	.....
	シルト (M)	=====
	粘性土 (C)	=====
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (U)	~~~~~
	高有機質土(腐植土) (Pt)	~~~~~

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	.....
	シルト質 (M)	=====
	粘土質 (C)	=====
	有機質 (O)	
	火山灰質 (U)	~~~~~
	玉石混り (B)	○●○●
	砂利・礫混り (G)	○●○●
	砂混じり (S)	.....
	シルト混り (M)	=====
	粘土混り (C)	=====
	有機質土混じり (O)	
	火山灰混り (U)	~~~~~
	貝殻混り (Sh)	○●○●

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	///
	玉石 (B)	○●○●
特殊材料	浮石(軽石) (Pm)	▲▲▲
	シラス (Sl)	◆◆◆
	スコリア (Sc)	▲▲▲
	火山灰 (Ua)	~~~~~
	ローム (Lm)	~~~~~
表土	黒ボク (Kb)	YX(X)X
	マサ (Ms)	
	表土 (S)	X
埋土	埋土 (FI)	X
	廃棄物 (W)	X

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ ( ) による

備考



# ボーリング柱状図

調査名 西部処理区(川平町)地質調査及び設計業務委託

ボーリングNo.							
----------	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 4		調査位置	長崎市 川平町 地内			北緯	32° 48' 10.1"									
発注機関	長崎市 下水道部 下水道建設課			調査期間	平成 12年 5月 31日 ~ 12年 5月 31日				東経	129° 53' 46.6"							
調査業者名	パシフィックコンサルタンツ株式会社 電話(092-885-5016)		主任技師	手島健治		現場代理人	古橋裕二	コア鑑定者	戸屋文雄	ボーリング責任者	重松秋良						
孔口標高	102.174m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°		使用機種	D0-DL型		ハンマー	落下用具		コーンブーリ
総掘進長	7.00m	度	0°		向			エンジン	NFD-10型		ポンプ	動力噴霧器					

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色相対密度	土質区分	記号	標準貫入試験					孔内水位 (m) / 測定月日	N 値	原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進月日	
									深	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	0	10								20
1	100.97 100.67	1.20 0.30	1.20 1.50		試験掘	黒く暗灰〜灰褐	試験掘	0.00~0.05m間は7スフト。 0.05~0.50m間は砕石。 0.50~1.20m間は礫混じり土砂。 φ5~40m/m大の礫を30%程度混入する。 1.05m付近にはコンクリート片を挟む。	1.35	2	3	3	8	30							
2									1.66	4	6	5	15	30							
3					粘性土	褐	粘性土	φ2~10m/m大の礫を僅かに混入する砂質粘土主体で採取される。	2.46	60			60	60							
4	97.92	2.75	4.25		砂礫	褐〜乳緑灰階	礫混り土砂	φ2~100m/m大の安山岩質・閃緑岩質・玄武岩質の亜角〜亜礫を30~40%程度含む。 マトリックスは砂質土主体である。	3.00	15			15	15							
5	97.37	0.55	4.80					全体に短柱〜棒状コア主体で採取される。 4.25~4.80m間は風化により多少脆弱であり、礫〜岩片状コア主体となる。 酸化により全体に褐色化が進む。	3.15				60	60							
6					閃緑岩	褐	軟岩 I		4.00	貫入不能			60	0							
7	95.17	2.20	7.00		閃緑岩	淡灰	軟岩 II	4.8m以深は非常に新鮮な閃緑岩となり、短柱〜棒状コア主体である。 亀裂は僅かであり、最大コア長は35cm程度。 ハンマーの打撃で鈍い金属音を発す。	5.00	1			60	1							
8									5.01				60	0							
9									6.00	貫入不能			6.00	0							

<凡例>

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○●○●
	礫質土 (GF)	○●○●
	砂 (S)	●●●●
	砂質土 (SF)	●●●●
	シルト (M)	
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (U)	
	高有機質土(隠補土) (Pt)	

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (U)	
	玉石混り (B)	○●○●
	砂利・礫混り (G)	○●○●
	砂混じり (S)	●●●●
	シルト混り (M)	
	粘土混り (C)	
	有機質土混じり (O)	
	火山灰混り (U)	
	貝殻混り (Sh)	○●○●

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	
	玉石 (B)	○●○●
特殊土材料	浮石(軽石) (Pm)	▲▲▲▲
	シラス (Sl)	●●●●
	スコリア (So)	▲▲▲▲
	火山灰 (UA)	
	ローム (Lm)	
表土	黒ボク (Kb)	
	マサ (Ms)	
	表土 (S)	
	埋土 (FI)	
廃棄物 (W)		

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ ( ) による

備考

# ボーリング柱状図

調査名 西部処理区(川平町)地質調査及び設計業務委託

ボーリングNo. \_\_\_\_\_

事業・工事名 \_\_\_\_\_

シートNo. \_\_\_\_\_

ボーリング名	No. 5		調査位置	長崎市 川平町 地内			北緯	32° 48' 8.9"					
発注機関	長崎市 下水道部 下水道建設課			調査期間	平成 12年 6月 1日 ~ 12年 6月 1日			東経	129° 53' 44.9"				
調査業者名	パシフィックコンサルタンツ株式会社 電話(092-885-5016)		主任技師	手島健治		現場代理人	古橋裕二		コ鑑定者	戸屋文雄			
ボーリング責任者	重松秋良		試験機	D0-DL型		ハンマー落下用具	コーンブーリ						
孔口標高	101.244m	角	180°上 90° 0°下		方	北 0° 270°西 90°東 180°南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	エンジン	
総掘進長	6.00m	度	0' 0'		向			試験機	NFD-10型		ポンプ	動力噴霧器	

標尺 (m)	層厚 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色相対密度	土質記号	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取番号	採取方法	室内試験(掘進月日)		
								深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	値							
100.84	0.40	0.40		埋土	黒~暗灰	礫混り土	0.00~0.05m間はアスファルト。0.05~0.40m間は砕石。	1.15	2	2	2	6/30						
98.74	2.10	2.50		粘性土	褐灰~灰褐	粘性土	礫混り粘性土主体で採取される。全体にφ2~10m/m大の礫を少量含む。マトリックスは砂質粘土主体。特に、0.6~0.7m間は腐植物を含む粘土(旧水田)にて採取される。	2.15	3	5	6	14/30						
97.39	1.35	3.85		礫	暗灰~褐	礫	φ2~50m/m大の安山岩質・閃緑岩質・玄武岩質の亜角~亜礫を30~40%程度含有する。マトリックスは砂質土主体。	3.33	13	47	8	60/18						
95.24	2.15	6.00		閃緑岩	乳灰~乳緑灰	軟岩II	短柱~棒状コア主体で採取される。全体に亀裂に沿って褐色化するが、岩片自体は非常に硬質である。ハンマーの打撃で鈍い金属音を発す。最大コア長は40cm程度である。	4.00	貫入不能			60/0	3.50	透水試験	1.27*10 <sup>-3</sup> cm/sec	S-1	④	粒径試験
								5.00	貫入不能			60/0	4.00					

<凡例>  
柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	
	礫質土 (GF)	
	砂 (S)	
	砂質土 (SF)	
	シルト (M)	
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (U)	
腐有機質土(腐植土) (Pt)		

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (U)	
	玉石混り (-B)	
	砂利・礫混り (-G)	
	砂混り (-S)	
	シルト混り (-M)	
	粘土混り (-C)	
有機質土混り (-O)		
火山灰混り (-U)		
貝殻混り (-Sh)		

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	
特殊材料	玉石 (B)	
	浮石(軽石) (Pm)	
	シラス (Si)	
	スコリア (Sc)	
土質材料	火山灰 (VA)	
	ローム (Lm)	
	黒ボク (Kb)	
	マサ (Ms)	
表土 (S)		
埋土 (FI)		
廃棄物 (W)		

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ ( ) による

備考